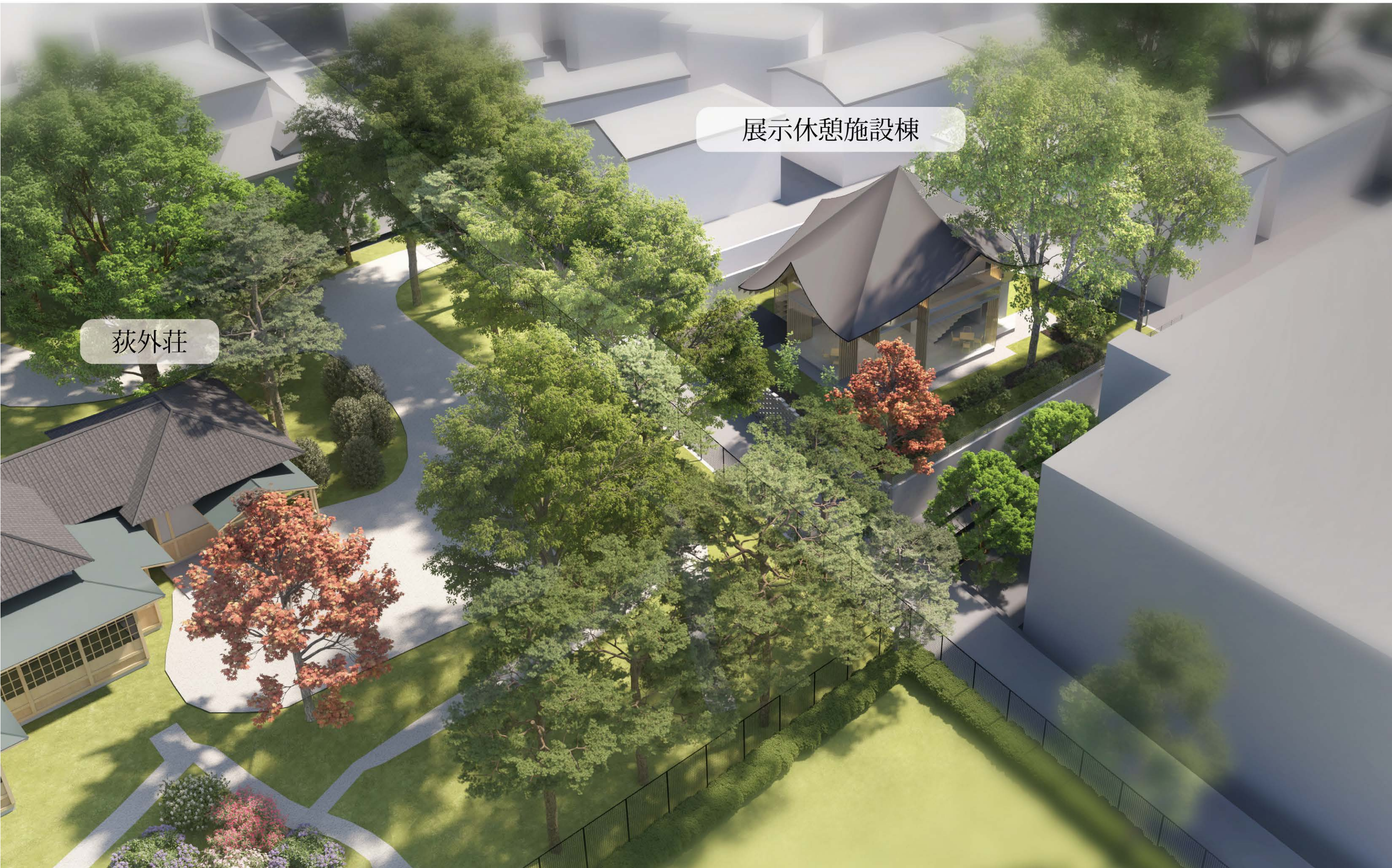


「萩外荘」 展示休憩施設棟 基本設計

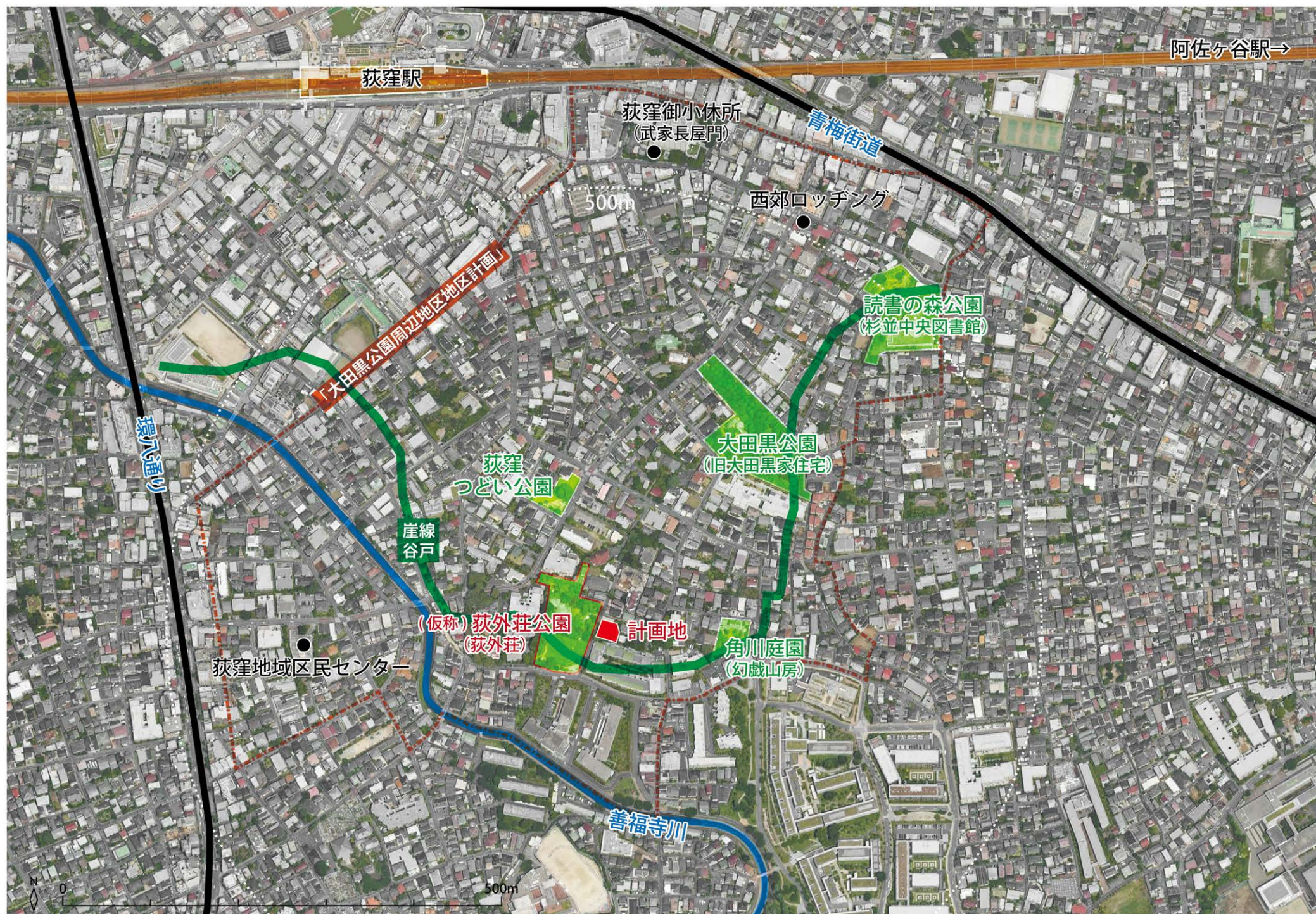


展示休憩施設棟

萩外荘

※プロポーザル段階のイメージ図であり基本設計を踏まえて今後変更があります。

“庭のまち” 荻窪の歴史と緑をつなぐ “荻窪ガーデンセンター”



荻窪三庭園の回遊性を高める拠点

→「荻窪三庭園」((仮称) 荻外荘公園、大田黒公園、角川庭園)の場所や魅力をわかりやすく紹介する案内所機能、休憩できるカフェ機能を備え「まちあるきの核」となるような施設を整備します。



(仮称) 荻外荘公園 大田黒公園 角川庭園

屋敷林・荻外荘と調和する景観

→近隣の閑静な住環境に配慮すると共に、荻窪の歴史や原風景を顧みながら人々が集える拠点として、荻外荘とも調和しながら新たな景観的魅力を生み出す建築・庭園をデザインします。



読書の森公園 荻窪つどい公園 屋敷林の面影

土地の記憶と緑を繋ぐ情報発信拠点

→荻外荘・荻窪の歴史や、近衛文麿をはじめ荻外荘ゆかりの人物に関する文化財展示等を行う展示室を整備し、「活きた屋敷林」の体験・学習の場である庭園とあわせた情報発信拠点とします。



(旧) 山田別荘 本計画地 (道から) 本計画地 (敷地内)

「荻外荘」展示休憩施設棟の経緯

計画地は、実業家の山田直矢氏が、明治末期に荻窪に購入した広大な土地の一部である。入澤達吉が居住していた「楓荻荘（現在の荻外荘）」が地域の人々に「入澤別荘」と呼ばれていたのと同様に、山田家の邸宅も「山田別荘」と呼ばれていたという。

伊東忠太が設計した数少ない現存する邸宅建築「荻外荘」の復原整備に取り組む折、道路を挟んだ本計画地を、令和3年6月に（仮称）荻外荘公園の追加用地として取得した。

農村から別荘地・住宅地へと発展した「荻窪」というまちの歴史を物語る存在のひとつでもある本計画地を、「荻外荘」に関する文化財の展示等に活用できるスペースとして整備する事とし、令和3年12月に「基本計画」を策定、「公募型プロポーザル」にて設計者を選定し、基本設計に着手した。

本計画地の概要

所在地	杉並区荻窪二丁目 42 番 12 号
面積	449.09㎡
用途地域	第1種低層住居専用地域
	容積率 100%
	建蔽率 50%
高さの最高限度	10m
高度地区	第1種高度地区
防火指定	準防火地域
地区計画	大田黒公園周辺地区地区計画

外観イメージ



※プロポーザル段階のイメージ図であり基本設計を踏まえて今後変更があります。

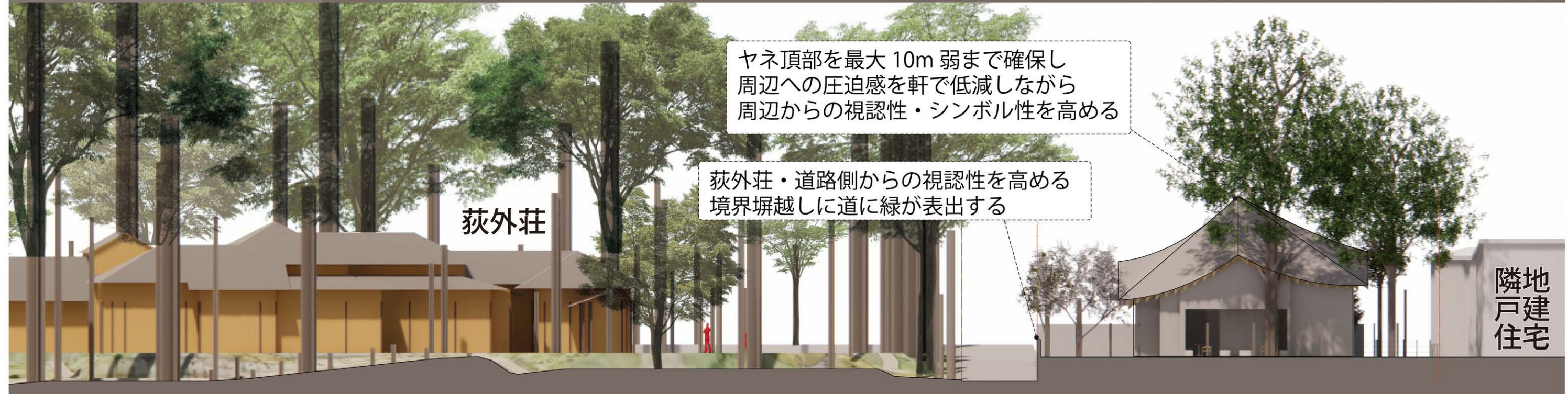
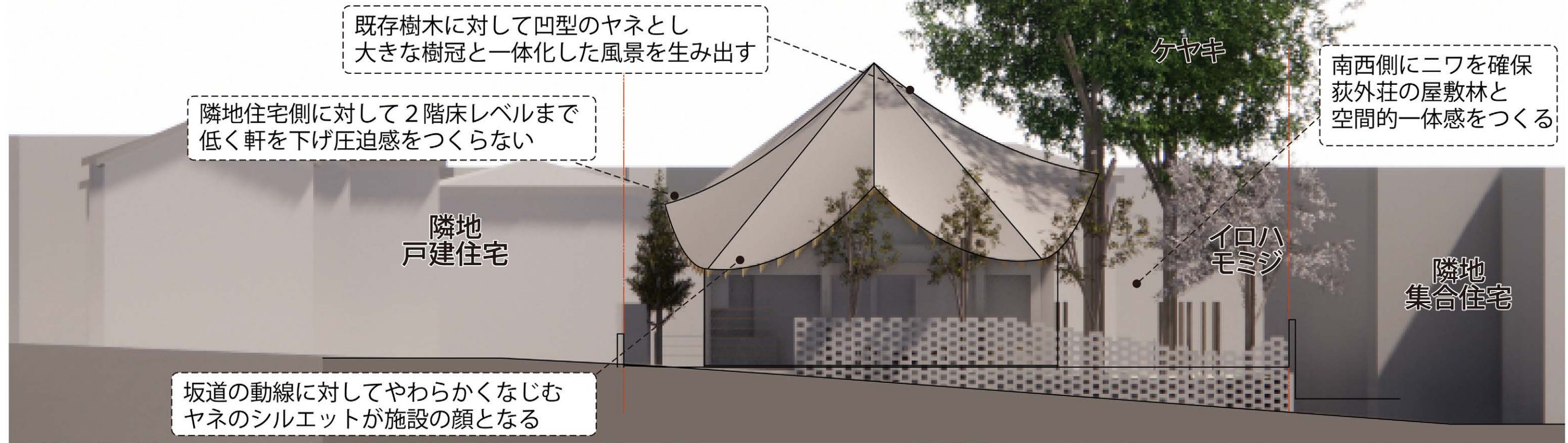
【建築計画】

屋敷林の坂道にやわらかく浮かぶ「ヤネ」

【荻外荘公園としての一体感】 まち・荻外荘からの視認性と透明性を高める設え

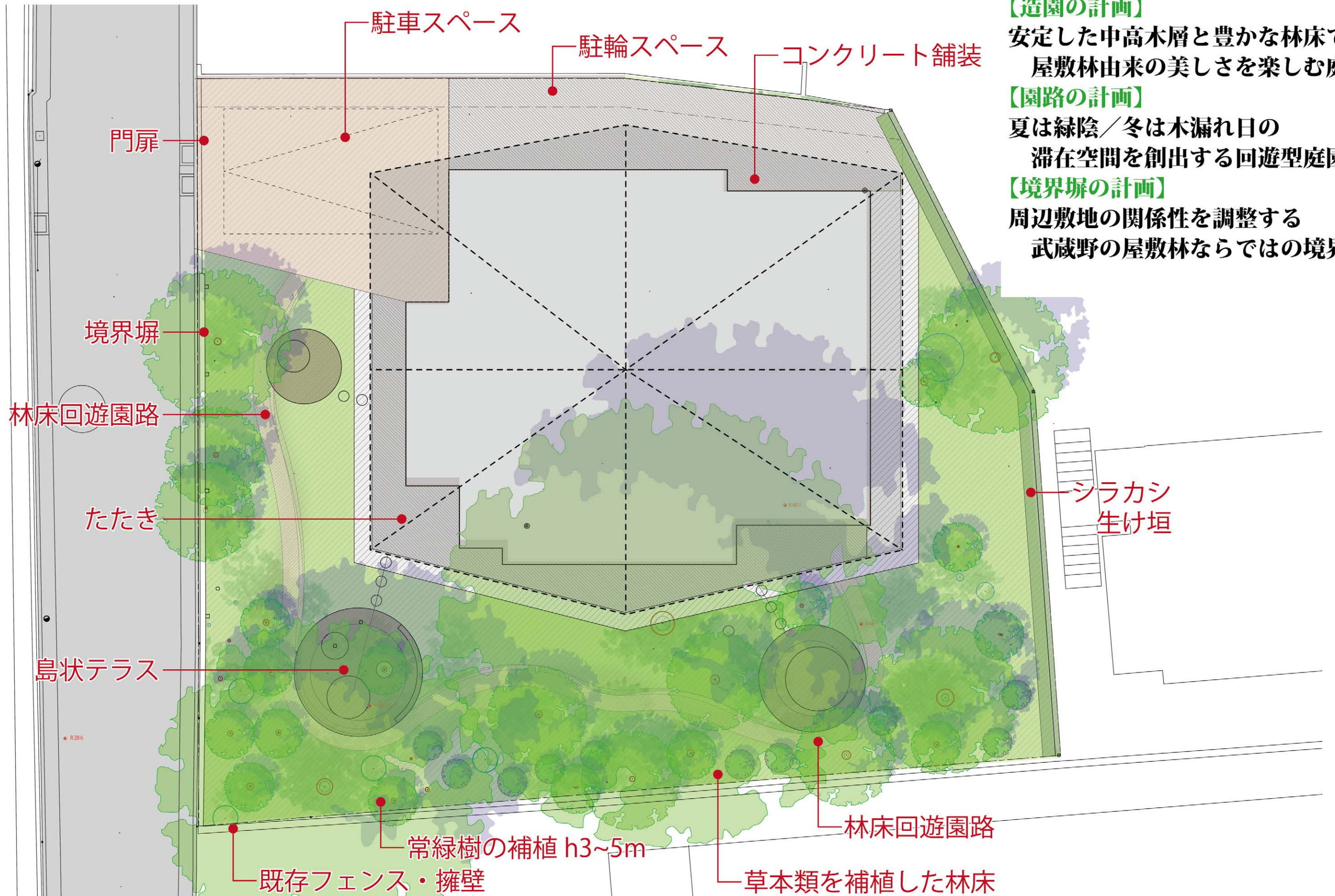
【配置計画】 住宅地スケールに調和するコンパクトな建築

【周辺環境への配慮】 まちへの表情を細やかに調整する屋根シルエット



【造園計画】

荻窪の屋敷林を継承する開かれた「ニワ」



【基本方針】

屋敷林の景観と機能を継承する
「活きた屋敷林」の保全整備

【造園の計画】

安定した中高木層と豊かな林床で
屋敷林由来の美しさを楽しむ庭

【園路の計画】

夏は緑陰／冬は木漏れ日の
滞在空間を創出する回遊型庭園

【境界塀の計画】

周辺敷地の関係性を調整する
武蔵野の屋敷林ならではの境界塀

※本資料は検討段階のものであり、変更となる場合があります。

内観イメージ



※プロポーザル段階のイメージ図であり基本設計を踏まえて今後変更があります。

【展示計画】

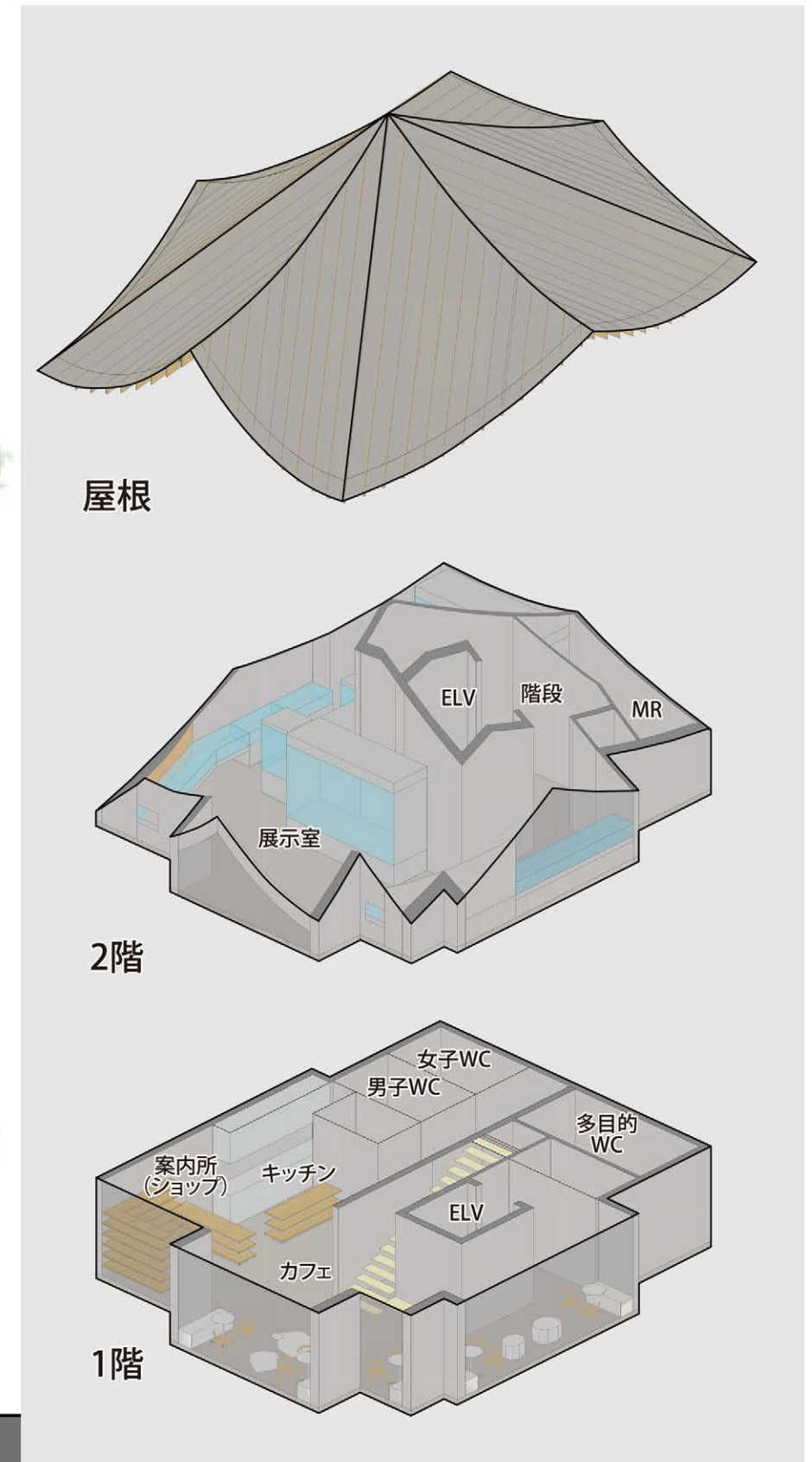
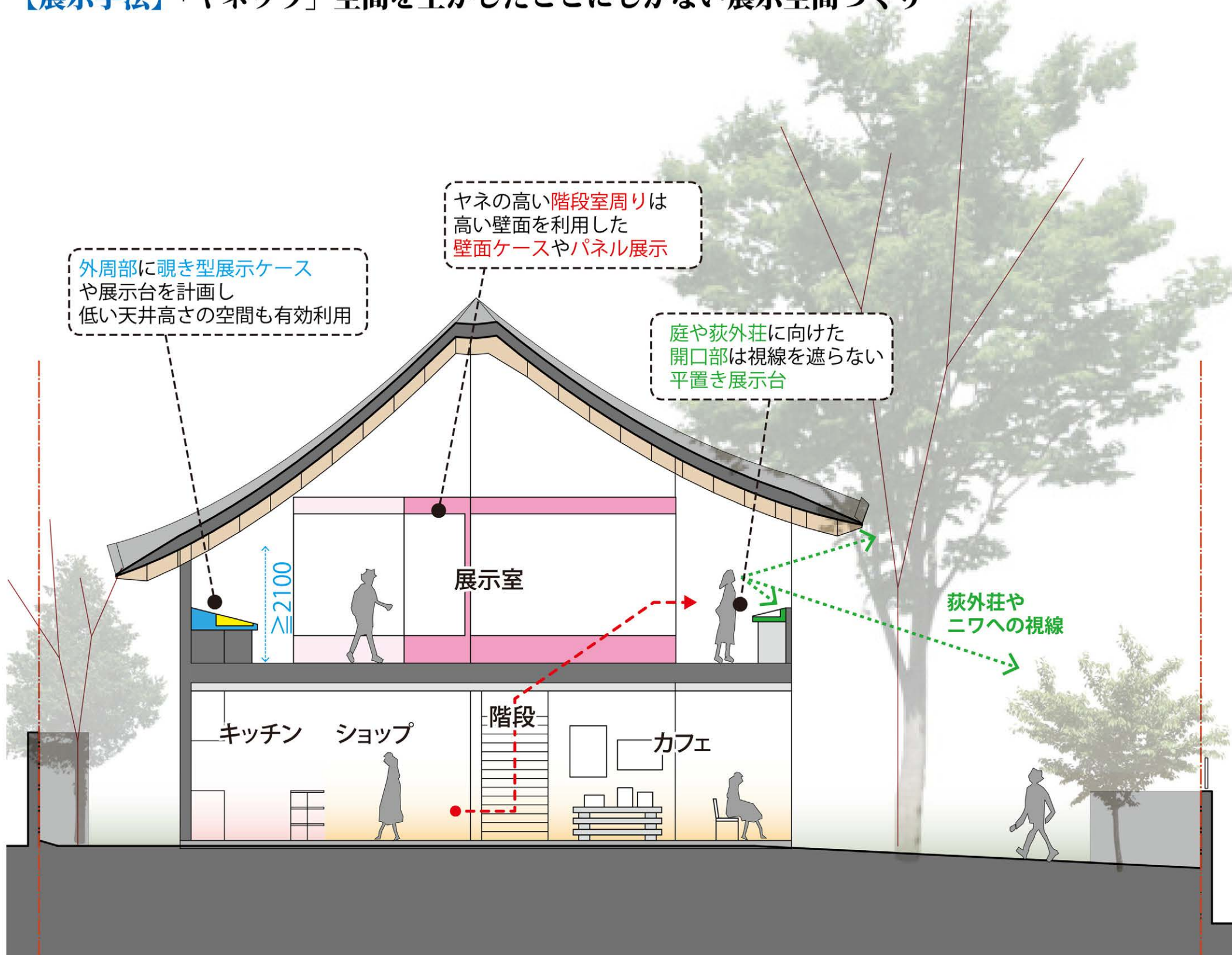
やわらかな木の質感にくるまれた「ヤネウラ」

【展示コンセプト】 様々な企画展示に対応できるフレキシブルな展示の設え

【動線計画とレイアウト】 奥行のあるストーリー展示を可能にするコの字型の展示室

【柔軟な運営・演出方針】 庭を含め施設全体に展示機能を備える情報発信機能

【展示手法】 「ヤネウラ」空間を活かしたここにしかない展示空間づくり



※本資料は検討段階のものであり、変更となる場合があります。

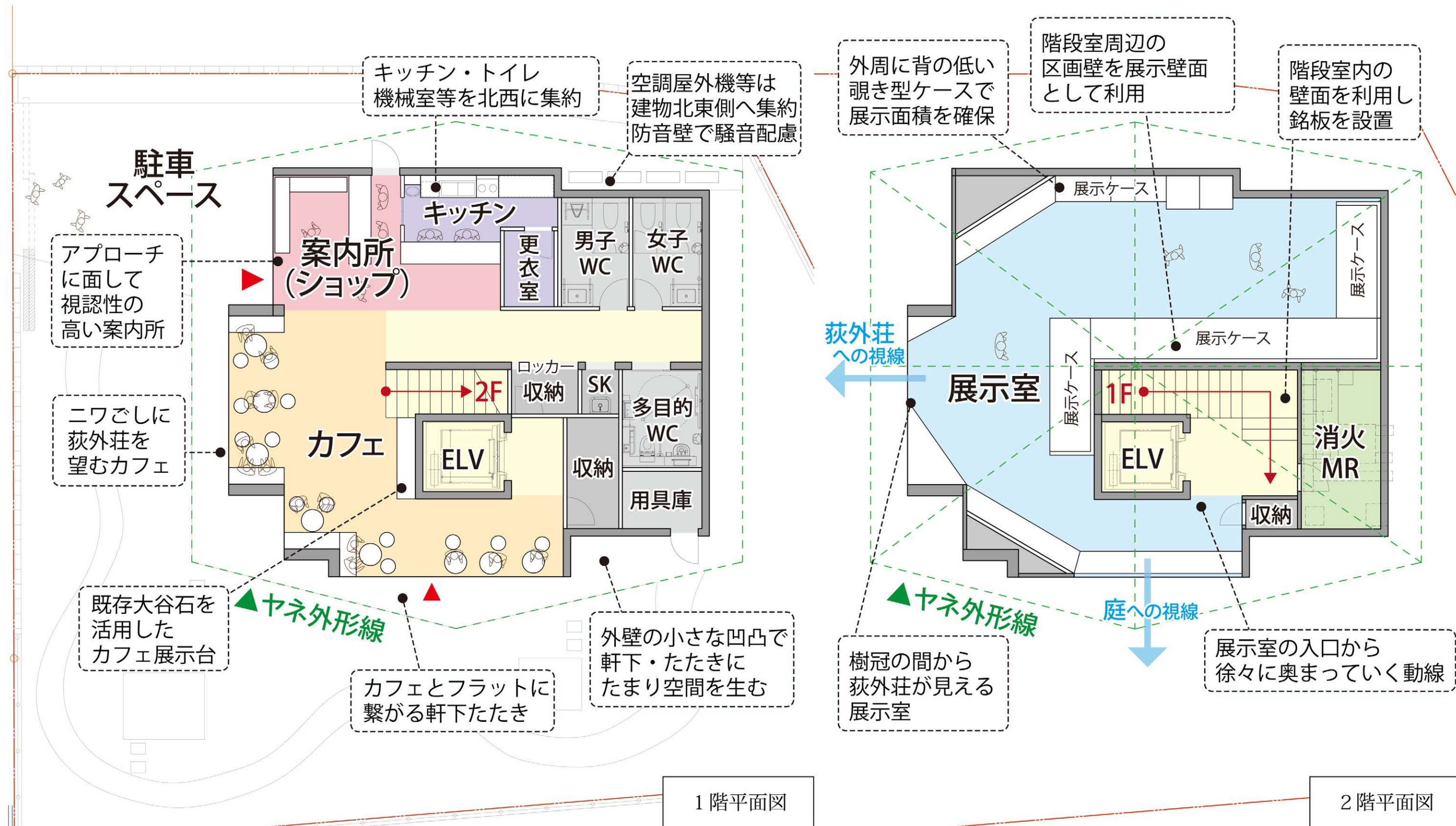
【平面計画】

コンパクトで合理的なゾーニングの「コヤ」

【基本方針】 堅実なコンクリート造と軽やかな鉄骨造屋根のコンパクトな建築

【諸室構成】 開放的な1階のカフェ・ショップと落ち着いた2階の展示室

【施設計画の工夫】 小さな凹凸のたまり空間で空間の利活用を幅を広げる平面計画



※本資料は検討段階のものであり、変更となる場合があります。